2006年度高槻市協働活性化モデル事業実施報告

やったらできた!!『協働』実践

～子育て支援をジェンダーの視点で～

NPO法人SEAN　協働活性化モデル事業担当
遠矢 家永子

2006年度、第3回目となった高槻市協働活性化モデル事業でしたが、3回目の応募でようやく採択される事になりました。

高槻市立総合市民交流センターには保育室と男女共同参画センター相談室が設置されており、相談室は現在水曜と金曜の週2回については利用されておらず、その空いた時間を期間限定「子育てママのグチグチ電話相談」を開設することで有効活用すること、男女共同参画センターの蔵書やビデオをさらに有効活用し、また子育て中の人たちにもっとセンターに出向いてもらうために子育ち講座と情報ライブラリーの開催を企画し行政との協働事業として提案しました。

幸いにして、高槻市立男女共同参画センターとの協催事業として位置づけられることになり、職員の皆さんにも積極的に本事業に関わっていただき、行政とNPOが共に取り組む事業を展開することができました。

情報ライブラリーの掲示物も、「ジェンダーと子どもの育ち」「子育てに関する意識調査」「絵本とジェンダー」「しょうがい」「食育」など、充実した内容にまとめあげることができ、その記録を残すことも含めて、当初予算計上していなかった報告書を頑張って発行することにしました。

「かつて『子ども』だったあなたのための子育ち講座」の内容や参加者の感想、情報ライブラリーや保育室を活用した一時保育の実施内容、「期間限定ピアカウンセリング子育てママのグチグチ電話相談」に関する相談員養成講座の実施内容や相談内容の分析、そして、「※『協働』への新たな理解に向けて」と題して大阪府職員研修受入れや高槻市職員研修受入れの概要など、盛りだくさんの掲載内容となっています。

今回の報告書作成はG-Freeの報告書「人として強くやさしく」を発行し終えてすぐの着手となりました。そのため、疲れが癒えぬままのハードなスケジュールであったことなど、発行に漕ぎ着けるまで精神的にもかなり追い込まれはしました。しかし、成果報告会では、報告書を発行したことについて講評委員長からも高く評価をいただくことができ、多少努力が報われた気がしました。

1.「子育て支援」をジェンダーの視点で行うこと
2.協働によるまちづくりが、今後の市政には必要不可欠であること

右記2点について、周知・理解や取り組みは高槻市でもまだまだこれからのことです。それらのメッセージを盛り込む事ができた今回の報告書の内容は、とても充実した内容であると自負しています。また、庁内間やNPO間での連携なども、事業を実施していく上で必要になり、今回の事業報告を通して実践の中からその必要性を提案することもできました。

少子化・高齢化に伴い、税収入も目減りしていく時代となりました。限られた財源の中でまちを如何に活性化させていくかの鍵は、行政とNPOなどとの協働にかかっています。今後の益々の協働促進を願います。

※『協働』とは…課題を共有し、課題解決に向かって行動を共にするプロセスである。行政とNPOが互いを信頼し協働すれば、地域課題が解決されるだけでなく、市民意識が高まり市民自治が育ち、まちは活性化されていく。（T）